

たのしく  
わたろう  
にじのかけはし  
～遊びと学びをつなげる～



令和7年3月

中央区教育委員会・中央区福祉保健部

## 目 次



|                    |    |
|--------------------|----|
| I 保幼小連携の現状 .....   | 1  |
| (1) 国の動向           |    |
| (2) 中央区の保幼小連携の現状   |    |
| (3) 中央区の保幼小連携の課題   |    |
| II アンケートについて ..... | 2  |
| III 考察 .....       | 4  |
| IV 資料 .....        | 5  |
| ① コミュニケーション .....  | 6  |
| ② 道徳性・規範意識 .....   | 8  |
| ③ 話を聞く態度 .....     | 10 |
| ④ 運動遊び .....       | 12 |
| ⑤ 時間に関すること .....   | 14 |
| ⑥ 身近自立(物の管理) ..... | 16 |
| ⑦ 食えること .....      | 18 |



# I 保幼小連携の現状

## (1)国の動向

現在の幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、3歳以上児の保育のねらい、内容が同一となるとともに、5歳児の成長の方向性を示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が各要領、指針に明記され、幼児教育としての共通化が図られています。幼児教育では、遊びを通した総合的な指導を通して、育みたい資質・能力を一体的に育んでいくことが求められています。

また、小学校学習指導要領総則においても、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の取り扱いが示されたことに加えて、スタートカリキュラムが位置付けられ、全小学校でのスタートカリキュラムの編成・実施が求められるようになるなど、幼児教育で育まれた資質・能力を踏まえた教育活動を実施することが期待されています。

## (2)中央区の保幼小連携の現状

中央区の具体的な施策や取組内容を示す「中央区基本計画2023」には、就学前教育の充実と義務教育に至る学びの連続性を確保し、保育の質の向上および内容を充実させる旨について明記されており、教育委員会と福祉保健部が共通認識のもと、保幼小連携を推進しています。

令和3年度からは、これまでの地区ごとのグループから小学校区連携グループを編成し直し、各校、園の保幼小連携推進担当者を中心に保幼小連携日の計画を立て、グループ内で子どもの育ちや指導内容、指導法等を共有し自身の指導に活かしております。私立・公立を問わず、認可・認証の保育所と幼稚園、認定こども園、小学校が連携していることは、本区の保幼小連携の特徴といえます。

また、保育所、幼稚園、小学校の代表者で構成した保幼小連携推進委員会では、保幼小連携における課題改善に向けての指導資料、保護者向けリーフレット等を作成し、保幼小連絡会で共有し、活用を促しています。

## (3)中央区の保幼小連携の課題

近年、本区は人口増加が続いており、小学校では児童数、学級数、教員数が増加傾向であります。また、幼児教育施設では幼児教育の無償化に伴い、教育・保育の多様化が進み、様々な経験を積み重ねた子どもが就学しており、これらのことを踏まえ、保幼小連携を見直す必要性が高まっています。

そこで、保幼小連携推進委員会では令和5年度に小学校第1学年担任に対して保幼小連携におけるアンケートを取り、現状、課題の把握を行い、課題改善における資料を作成することとしました。





## Ⅱ アンケートについて

- 1 目 的 小学校第1学年の現状を把握し今後の具体的方策の検討の基礎資料とする。
- 2 調査対象 中央区立の全小学校第1学年担任（53学級）
- 3 時 期 令和5年8月

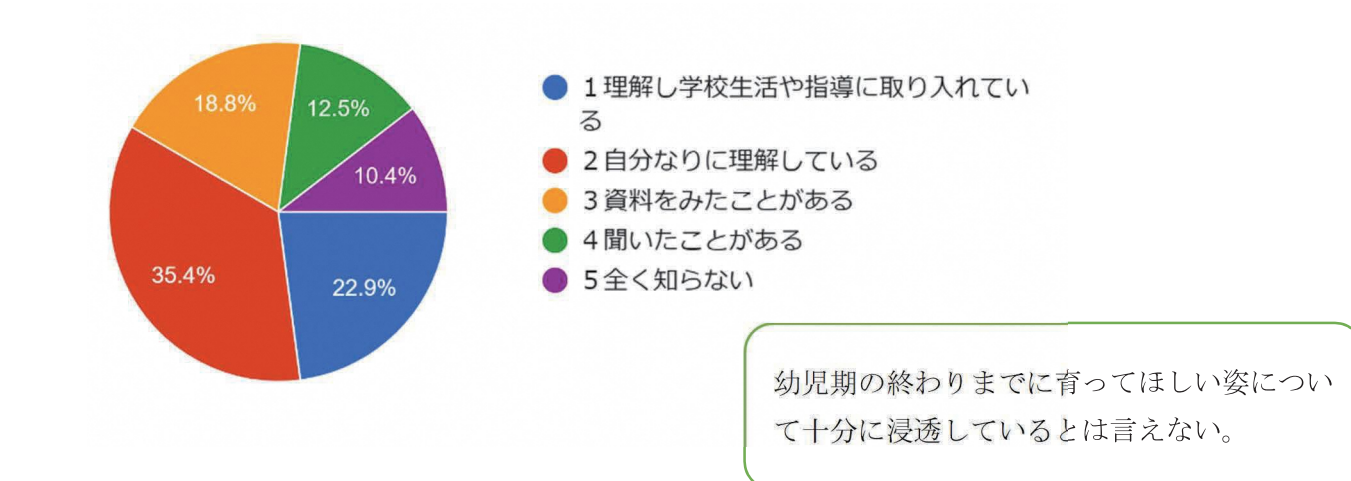
問1 第一学年を担当するのは何回目ですか？



問2 2の回答のうち、中央区での経験は何回目ですか？



問3 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」についてお聞きます。  
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を知っていますか？



問4 スタートカリキュラムを実践するうえで配慮したこと、重点においたことはどのようなことですか？

- ・学校生活が楽しいと感じられるようにする。
- ・児童の実態に応じて無理なく、ステップアップする。
- ・保幼小連携日等に情報共有した幼稚園、保育所等で親しんできた活動（遊び、歌、リズム、絵本等）を取り入れ、主体的な活動につなげる。
- ・児童、保護者が安心できるように学年で指導をそろえる。
- ・週ごとのねらいをはっきりさせる。

問5 スタートカリキュラムを実践し、幼児教育の成果(小学校生活に生きている)はどのようなことですか？

- ・遊びが学びにつながっている。
- ・当番活動や話し合い活動の経験が学校生活につながっている。
- ・自分のことは自分で行おうとする気持ちがある。
- ・興味、関心をもって取り組む児童が多い。
- ・生活科で、自由な発想でものを作ったり考えたりすることができる。

問6 スタートカリキュラムを実践し、幼児教育の課題と感じることはどのようなことですか？

- ・個から集団となっていく過程の時期であり、集団の中の一員であるという認識をもたせること。
- ・学校生活全体を通して、人の話を最後まで聞くこと、言葉での伝え合いの経験が少ないこと。
- ・就学前の経験の差（施設、規模、家庭）が大きく、生活習慣の身に付き方、友達との関わり方等の違いがみられること。
- ・善悪の判断が難しい。人の嫌なことをしてはいけないということは分かっているが、相手にとって何が嫌なことか、何をしてはいけないのか、したらどうなるのかイメージが浮かばない。

問7 保幼小接続・連携やスタートカリキュラムについて意見

- ・スタートカリキュラムを実施したことで、実際に保護者や児童がどのように感じているのか、アンケートを取って検証したい。
- ・他校でのスタートカリキュラムの編成の仕方やカリキュラムを知りたい。また、実施後に保護者にフィードバックできる機会があるとよい。
- ・様々な幼児教育施設を見学し、生活実態や環境を知ることが必要である。
- ・入学前の経験や保護者の価値観が多様である。入学後の学校のルールを理解や保護者の意識改革が難しい。
- ・保育とスタートカリキュラムのつながりの重要性を教員が学ぶ機会があるとよい。
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を学校全体で共通理解することが難しい。



### Ⅲ 考察

- ・第1学年の担任が、本区での1年生担任の経験が少ない傾向がみられる。
- ・各学校スタートカリキュラムを作成しているが、具体的な指導法まで共有されにくい状況がある。
- ・様々な幼児教育施設から入学するケースが多く、就学までの経験に違いがあり、学校生活全体を通して配慮をしている。
- ・学校区での保幼小連携日等を活用し、そこでの協議の内容を基に、スタートカリキュラムを作成したり、指導に生かしたりしている。



アンケートで課題に挙げた項目（話を聞く態度、コミュニケーション等）ごとに  
3歳児から小学校第1学年の指導のポイントをまとめた指導資料を作成する。



## IV 資料＜資料の見方＞

学校生活全体で指導を行う内容

### 1 年生指導のポイント

#### 1 年生当初の姿

- ・新しい集団の中で、友達との関わり方を探っている。
- ・新しい環境や人間関係の中で、自分の気持ちをどのように言葉で伝えたいかを考えている。
- ・相手の気持ちを考えようとしている。

☆教師は、できたことやよかったことをすかさずほめ、信頼関係を築く。小さなことでもほめることで、児童の自己肯定感を高める。

姿勢がいいね。  
元気に返事ができたね。  
字を丁寧に書けたね。  
まっすぐ並べたね。

1 日 1 回は、児童の名前を呼ぼう。

朝の会の出席確認をお勧め。

活動する時間を 1 単位時間（45 分）の中で 1 回は作り、自分の考えを伝えられるようにする。

さらに、全体の場での発表ができるようにする。

《一人一ペア・グループ→全体》

☆休み時間は児童が一人にならないように学級全員で遊ぶ機会を設ける。学級で同じ遊びをすることにより、児童同士の親近感が増す。



机を 4 人で見合う形に合わせると、会話が生まれやすい。

みんなで鬼ごっこやボール遊びなどを楽しもう！  
教室にこさを敷いて、カルタなどをするのもお勧め！

☆場に合った話し方、言葉遣いについて一緒に考える。



#### 目指す児童像（第 1 学年最後の姿）

- ・友達に言葉で気持ちを伝えられる。
- ・友達についての理解を深め、友達のよさに気付くことができる。

コツ

・（幼児の姿） ☆指導のポイント

### ① コミュニケーション

テーマに特化した幼児の姿

- ・好きな友達ができる。
- ・友達と一緒にいる楽しさを感じる。



☆安心感、信頼関係づくりに努める。

まずは、保育者がたくさん話を聞き、思いを引き出そう。

幼児と目線を合わせて話す。

- ・友達と遊びのイメージを、部分的に共有できる楽しさを感じる。
- ・友達の思いに気付くが、受け入れることが難しい。

幼児の言葉を補ったり、分かりやすい言葉に言い換えたりしながら、言葉で伝え合うモデルとなる。

- ・友達と思いを出し合いながら遊ぶ。
- ・自分と友達の考えの違いに気付き、受け入れようとする。



☆幼児同士が話し合う機会を意図的に保障する。

☆トラブルが起きたときは、幼児自身で解決できるような支援をする。

はじめは保育者が仲裁に入り、互いの思いを聞き出す、共通点を探するなど、解決に向けてのモデルとなる。



## ① コミュニケーション

3歳児

- ・好きな友達ができる。
- ・友達と一緒にいる楽しさを感じる。



☆安心感、信頼関係づくりに努める。

まずは、保育者がたくさん話を聞き、思いを引き出そう。

幼児と目線を合わせて話す。

4歳児

- ・友達と遊びのイメージを、部分的に共有できる楽しさを感じる。
- ・友達の思いに気付くが、受け入れることが難しい。

☆自分の思いや考えを友達に、言葉で伝えられるように援助する。

幼児の言葉を補ったり、分かりやすい言葉に言い換えたりしながら、言葉で伝え合うモデルとなる。

5歳児

- ・友達と思いを出し合いながら遊ぶ。
- ・自分と友達の考えの違いに気づき、受け入れようとする。

話し合いは2人から始め、4人までを目安にしよう！  
分かりやすいテーマにし、目的意識をもてるようにする。



☆幼児同士が話し合う機会を意図的に保障する。

☆トラブルが起きたときは、幼児自身で解決できるような支援をする。

はじめは保育者が仲裁に入り、互いの思いを聞き出す、共通点を探すなど、解決に向けてのモデルとなる。

## 1年生指導のポイント

### 1年生当初の姿

- ・新しい集団の中で、友達との関わり方を探っている。
- ・新しい環境や人間関係の中で、自分の気持ちをどのように言葉で伝えたらよいかを考えている。
- ・相手の気持ちを考えようとしている。

☆教師は、できたことやよかったことをすかさずほめ、信頼関係を築く。小さなことでもほめることで、児童の自己肯定感を高める。

姿勢がいいね。  
元気に返事ができたね。  
字を丁寧に書けたね。  
まっすぐ並べたね。

☆授業では、少人数グループ（2人～4人）で話し合ったり、

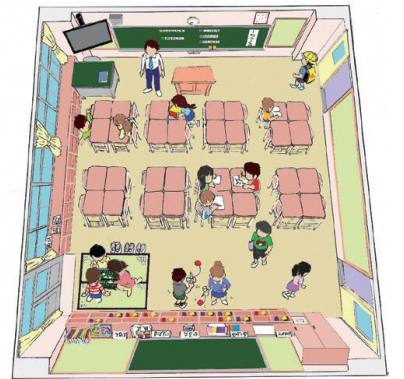
1日1回は、児童の名前を呼ぼう。  
朝の会の出席確認がお勧め。

活動する時間を1単位時間（45分）の中で1回は作り、自分の考えを伝えられるようにする。

さらに、全体での発表ができるようにする。

《一人→ペア・グループ→全体》

☆休み時間は児童が一人にならないように学級全員で遊ぶ機会を設ける。学級で同じ遊びをすることにより、児童同士の親近感が増す。

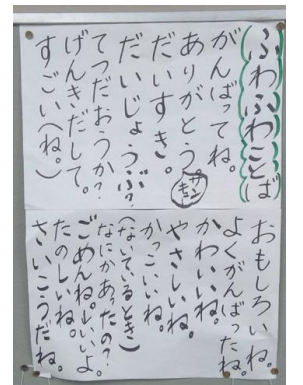


机を4人で見合う形に合わせると、会話が生まれやすい。



みんなで鬼ごっこやボール遊びなどを楽しもう！  
教室にごさを敷いて、カルタなどをするのもお勧め！

☆場に応じた話し方、言葉遣いについて一緒に考える。



### 目指す児童像（第1学年最後の姿）

- ・友達に言葉で気持ちを伝えられる。
- ・友達についての理解を深め、友達のよさに気付くことができる。



## ② 道徳性・規範意識

保育者も一緒に行動しモデルとなろう。

3  
歳児

・心地よく過ごすためのきまりがあることを知る。

☆「貸して」などの言葉や、交代・順番等のきまりなど、幼児同士で活動する上で必要なことを伝え、保育者が一緒に行動しながら、徐々に自分でできるようにする。

むっくりくまさん・しっぽとり など

4  
歳児

・生活を通してきまりの大切さに気付き、守ろうとする気持ちをもつ。

☆簡単なルールのある遊びを繰り返しながら、それを守って遊ぶ楽しさを味わえるようにする。

右側歩行の矢印

ゴミの仕分け



☆気持ちよく遊びや生活を進めるためのきまりをクラス全体で共有する。

共有したきまりを視覚的に示し、幼児の理解を促そう！

5  
歳児

・遊びや生活をよりよくするために、自分たちできまりをつくり守ろうとする。

トラブルが起きた時はチャンスでもある。きまりは幼児たちと相談してつくろう！

☆機会を捉え、遊びや生活のきまりの意味や理由を意識できるようにする。  
☆クラス全体の規範意識が高まる環境づくりをする。

モデルとなる幼児の姿を認めて、全体の意識を高めよう！

止まる  
マーク



部屋の出入りの際、ぶつかりそうになったことから幼児とぶつからないためには、どのようにしたらよいか考え、きまりをつくった。

## 1 年生指導のポイント

### 1 年生当初の姿【道徳性・規範意識】

- ・不安な気持ちとともに、新しい環境に意欲や前向きな気持ちをもっている。
- ・様々な就学前施設から就学しているため、きまりが異なる。

☆様々な就学前施設から集まっていること、新しい環境に慣れていないことを踏まえ「幼児期にできていたことが、できなくなることもある」くらいの気持ちで関わる。

☆イメージしやすい言葉掛けを行う。

静かに歩きましょう。  
→忍者のようにね！

新しい環境を児童と共に確認する。

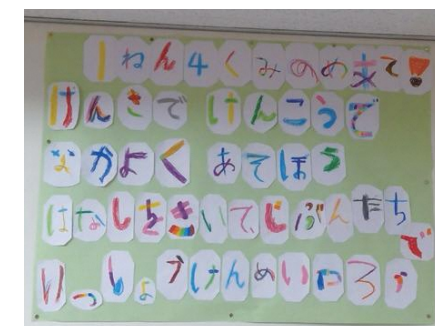
☆必要な約束事は、始めは教師から問い掛け、徐々に児童同士で気付き合えるように、学級会等を活用する。

教師からの一方的な伝え方では意味なし！自分で判断できるような声掛けを行う。  
「どうして守らなければいけないのかな？」  
「廊下を走ったらどうなる？」→人にぶつかる。転んでけがをする。

☆自分たちで決めためあてやルールであることを意識させる。

☆1 回の指導では身に付かないこともある。  
粘り強く、繰り返し指導することが大事である。

6 年生に手本を示してもらうことがお勧め。  
相乗効果が期待できる。



学級のめあて

このような否定的な言葉を投げ掛けていませんか？  
「この前も言ったよね！」「何回言えば分かるの！」「保育園や幼稚園からやり直さないといけないね！」

### 目指す児童像（第1 学年最後の姿）

- ・集団の中で自分たちなりのきまりをつくり、それを守って生活しようとする。

### ③ 話を聞く態度

3歳児

- ・ **みんなと一緒に絵本や紙芝居を楽しく見るようになる。**



☆落ち着いて話を聞くことができる環境をつくる。

足が床につく状態をつくろう。  
(牛乳パックや箱で製作)

- ・ 絵や写真などの視覚的教材を活用しよう！
- ・ ポイントを整理してから幼児の前で話そう！

4歳児

- ・ **集団の一員としてクラス全体に向けた話が聞けるようになる。**



☆保育者の話に意識や興味をもたせる。  
☆話に集中しやすい環境づくりをする。

- ・ 場面に合った座り方を提示する。
- ・ 保育者の背面に掲示物が多く貼られていないか確認する。
- ・ 太陽光のまぶしさはないか確認する。

5歳児

- ・ **クラス全体に向けた保育者の話を大切だから聞こうという自覚が芽生える。**



☆幼児の実態を把握して、話し方を工夫する。

- ・ 端的な伝え方を心掛けよう。
- ・ アイコンタクトや「〇〇ちゃんはどう思う？」など問い掛けをしよう。
- ・ 聞いていたからできたことを認めよう！

☆小学校生活とのつながりを意識し、椅子に座って話を聞く機会、時間を徐々に増やす。

連携している小学校の実態を踏まえて指導する。  
例「あしはぺったん、せなかはぴん  
おなかとせなかは、ぐーひとつ」

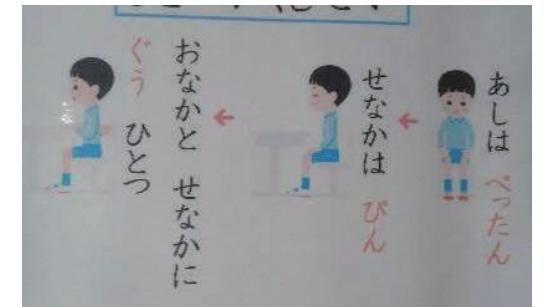
### 1年生指導のポイント

#### 1年生当初の姿

- ・ 教師の話を聞こうとする。
- ・ 様々な就学前施設から就学しており、座り方や話の聞き方等が異なる。

☆座り方の合言葉を知らせる。

☆集中力を持続して座ってられるのは  
15分程度であるため、楽しさを持続しながら、少しずつ長くする。



☆聞くときのコツを知らせる。

- ① 相手を見て
- ② うなずきながら
- ③ 自分の考えと比べて

4・5月は、ひとつの活動を15分の目安で考えよう！

(例) 国語科 ひらがな 15分  
教科書の音読 15分  
読み聞かせ 15分

☆指示の仕方は、ひと指示ひと行動から！

増やすときは徐々に！

絵・実物等、視覚的教材を活用しよう。



☆耳から情報を入れることが得意な児童もいれば、目からの方が得意な児童もいるので、個に応じて話し方を工夫する。

☆話の聞き方(座り方)がよい児童は積極的にほめよう。

全体の場でほめると、他の児童もやる気になる。

#### 目指す児童像(第1学年最後の姿)

- ・ 話し手の方を見て最後まで聞く。
- ・ 一斉指導の中で話を理解し、課題に取り組む。



## ④ 運動遊び

動物などの生き物や忍者など、イメージがもてるような声掛けや音楽、表示、環境の工夫を！

3歳児

- ・全身を使った基本的な動きが一通りできるようになる。



- ☆保育者と一緒に体を動かす心地よさを感じられるようにする。
- ☆イメージの中で、なりきって動くことを楽しめるようにする。
- ☆全身を使って遊ぶ中で、歩く、走る、跳ぶ、登る、這う、立つ、起きる、回る、渡る、ぶら下がる等の経験をさせる。

4歳児

- ・全身のバランスをとる能力が発達する。
- ・身近にある用具を使って操作するような動きができるようになる。



- ☆様々な動きが楽しめるように、巧技台やマット等の遊具を組み合わせ、繰り返し遊んだり、考えて動いたりすることができるようにする。
- ☆体全体でリズムをとったり、用具を巧みに操作したりコントロールしたりする遊びを経験させる。
- 例 縄跳び、ボール遊び

5歳児

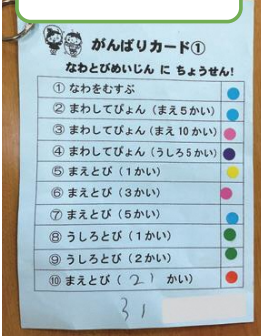
- ・複雑な動きができ、みんなで運動遊びを楽しむようになる。
- ・相手の動きに対応したり、動きをコントロールしたいしながら体を動かすことができるようになる。
- ・少し難しいことにもチャレンジしようと繰り返し取り組む。

- ☆基本的な動きを組み合わせ、挑戦したいと思えるような遊びを提示する。
- 例 手つなぎ鬼、ひょうたん鬼、靴取り鬼

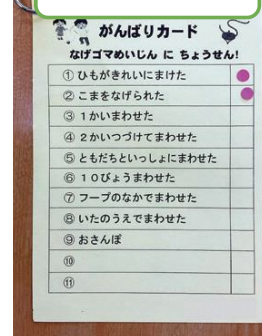
自分で様々な運動遊びに挑戦できるようにチャレンジカードを活用する。

- ☆自分の目標に向かって意欲的に取り組めるように、目標をはっきりもてる遊具を活用する。
- 例 長縄、短縄、鉄棒、一輪車

縄跳び



こま



## 1年生指導のポイント

### 1年生当初の姿

- ・運動をゲーム感覚で楽しんでいる。
- ・運動経験に差が見られる。
- ・自分の体の使い方が未熟な児童もいる。

☆体育の授業に、遊具遊びや運動遊びを取り入れ、楽しみながら体を動かすことができるようにする。

整列や集合をゲーム感覚で練習する。  
例 スキップなどで広がり、笛が鳴ったら教師のいる場所で整列する。



鉄棒の下にマットを敷くなど補助具を活用して、恐怖心を軽減できるように工夫する。



楽しみながら自然に体を動かすことができる運動遊びを取り入れる。

- 例 「おはなしマット」・「進化じゃんけん」
- ・「ミラーマン」 ・「スキップ&タッチ」

☆友達の動きに着目させ、新たな動きを引き出したり、挑戦させたりする。

互いのよいところを見付け、伝え合う機会つくる。

☆活動の振り返りの時間を設ける。

- ・振り返りカードを活用する。
- ・「なわとびカード」「鉄棒カード」など、スタンプやシールを貼れるようにする。



### 目指す児童像（第1学年最後の姿）

- ・どの運動遊びも楽しんで参加し、基本的な動きや技能を身に付ける。
- ・様々な動きに触れ、苦手なことにも挑戦する。
- ・安全に気を付けながら、ルールを守って運動することができる。



## ⑤ 時間に関すること

3  
歳  
児

・保育者の声掛けで、  
次の行動をしようとする。



☆生活の流れに簡単な見通しをもつことが  
できるような声掛けを意識する。

トイレに行ったら  
外に行く準備をしよう!

4  
歳  
児

・部分的な生活の見通しをもつことができる。



☆部分的な見通しをもつことができる  
ように、幼児が見て分かる掲示の  
工夫をする。  
☆時計を活用し、活動の始まりを目で  
見て分かるようにする。

長い針が★になったら片付けよう!

5  
歳  
児

・1日の活動の流れが分かり、  
自分たちで行動しようとする。

☆自分たちで気付いたり、確認したりできる  
ような掲示や声掛けをする。  
☆時期や状況に応じて、時間の示し方を工夫し、  
見通しをもてるように知らせる。



「長い針が『12』に  
なったら片付けをするよ。」

行事に向けての取組など、5歳児後半から以下の  
ような声掛けの工夫もある。  
「長い針が『12』になったら片付けをするよ。  
長い針が『5』になったら、遊戯室に集まるよ。  
それまでに、片付けやトイレを済ませましょう。」

## 1年生指導のポイント

### 1年生当初の姿

- ・時間で活動が切り替わる生活に慣れていない。
- ・時計を読める、読めない児童に大きく分かれている。

※時間割での生活がスタート!

☆見通しがもてるように、活動を視覚的に掲示する。

☆一日ごとの時間割表を掲示する。

☆生活や授業中の課題の見通しがもてるような声掛けをする。

☆時計の数字を伝え、明確に指示を出す。

☆時間を考えて行動した児童をほめる。



今から長い針が7までに～を終わらせよう。

長い針が5になったら移動するよ。

自分で時計を見て動けたね。

☆自分から行動できるような声掛けをする。

「休み時間に授業の準備をしておこう」等、決まった時刻で活動することに  
慣れるように繰り返し声を掛けていく。

☆タイマーの活用、ICTの活用（数字のカウントダウンや円グラフ）で視覚的・  
聴覚的に理解させる。

### 目指す児童像（第1学年最後の姿）

- ・学校生活に見通しをもち、自分で時計を見て行動することができる。
- ・チャイムを守ることができる。



## ⑥ 身辺自立（物の管理）

3  
歳児

・身の回りのことを自分でやってみようとする。



☆マークシールを活用し、自分の場所や持ち物が分かるようにする。  
☆1日の流れを同じにしたり、表示を使ったりしながら、自分から動き出せるようにする。

新しい環境の慣れ具合に応じて、自分で管理する物の量を増やす。

☆5歳児クラス進級に向け、徐々にマークシールと名前を一緒に表示する。

4  
歳児

・部分的な生活の流れが分かり、自分から身の回りのことなどをしようとする。

5  
歳児

・自分の持ち物を、自分で管理をする。  
・自分たちで身の回りを整える意識をもち、心地よく生活するための工夫をする。



ペンやガムテープなどを色別にししたり、番号を付けたりし、分類できるようにする。

☆マークシールから、ひらがな表示に移行していく。

☆自分で物を管理する経験を通し、物の大切さを知ることができるようにする。

☆引き出しや道具箱を整理整頓する機会をつくり、整理の仕方、片付け方など自分で考えられようにする。



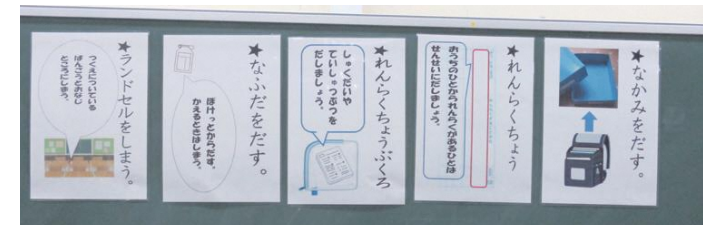
学級のみんなで身の回りを整えることができる環境づくりを！

## 1 年生指導のポイント

### 1 年生当初の姿

- ・学習用具が増え、自分の持ち物の把握や管理が難しい。
- ・自分で管理する物が増えるため、忘れ物や無くし物をしやすい。
- ・引き出しの中が乱雑で手紙や宿題のプリントが保護者に届かないことがある。

- ☆入学当初は、道具箱の入れ方など写真や絵で表示する。
- ☆提出箱を用意する。
- ☆身支度の手順を表示する。
- ☆出席番号、名前を表示し、自分の場所が分かるようにする。



落とし物が出た際、その都度児童と一緒に、物の大切さについて考える機会をもつ。

保護者に依頼などし、持ち物に名前を書く、ロッカーに入るくらいの大きさの物など、具体的なイメージがもてるように案内する。

月に一度の頻度で、道具箱やロッカーを整理整頓する時間を設ける。



お泊まりの部屋

持ち帰りの部屋



☆班ごと、個人で置いておく教科書の場所を決める。

☆道具箱の使い方を掲示する。



### 目指す児童像（第1学年最後の姿）

- ・学級や自分で使う物を大事にする気持ちをもち、大切にすることができる。
- ・どの場所に何を保管するか考え、整理整頓を心掛けて自分で物の管理ができる。
- ・何を持ち帰るのが分かり、提出物を出すことができる。



## ⑦ 食べること

3歳児

### ・みんなと一緒に楽しく食べる。



☆スプーン、フォークの鉛筆持ちが、できるようにしていく。

はしは手指機能が未熟な時期には使わない。



### ・食育活動を通して、苦手な食材も食べてみようと思う。

☆励ましや少しでも食べたら認めるなど自信につなげる。

☆給食や弁当のメニューを伝え、どのような食材が使われているか分かるようにし、食に興味をもつことができるようにする。



☆はしに移行できるようにしていく。

### ・苦手なものでも一口は食べてみようとする。

### ・自分の給食を運ぶこと、片付けをすることができる。



はしの持ち方、食事の姿勢など、家庭と一緒に取り組むことができるように、園から情報発信をする。

☆自分の食べられる量が分かるような声掛けをしていく。

☆時間を意識しながら食べることができるような声掛けをしていく。

食器の置き場所を理解し、自分たちで出来るようにする。



5歳児

## 1年生指導のポイント

### 1年生当初の姿

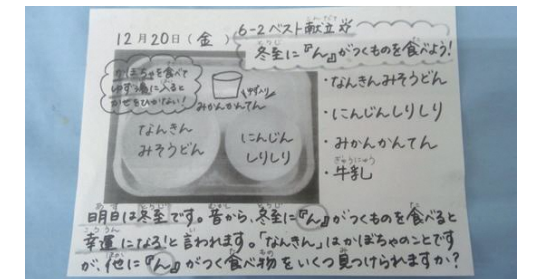
- ・食べられない食材や好き嫌いがある児童が多い。
- ・「食べたことがない。」と食わず嫌いが目立つ。
- ・食べ終わるまでに時間がかかる。

☆行事、郷土料理などのメニューの時は、声を掛け、食に興味をもてるようにする。

一口でも食べたことをほめ、次へつなげる。

☆学校探検に給食室の見学や栄養士からの話を

組み入れ、児童の意識を高めるとともに、野菜の皮むき経験やメニューの紹介等、栄養士と連携を図る。



☆マナーを守って食べることができるようにする。

☆もぐもぐタイムを設定したり、放送で音楽がかかっている時は話をしないで聞いたりするなど、食べることに集中できるようにする。

☆自分が食べられる量が少しずつ分かるように声を掛ける。



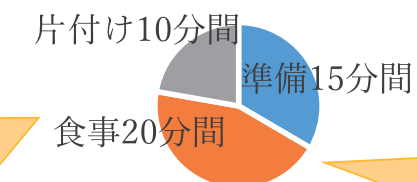
次は、少し増やしてみようね。

これくらいの量なら食べられるかな？

自分が食べられる分だけでも大丈夫だよ。

### 給食45分間の割り当て

4、5月は準備開始を早くし、(4時間目を給食指導として準備開始とする場合が多い。)食べる時間を多めにする。  
6月くらいからは時間割に準ずるように調整する。



■ 準備 ■ 食事 ■ 片付け

20分間で食べ終わることができるように、食べられる量を徐々に調整できるように声を掛ける。

### 目指す児童像(第1学年最後の姿)

- ・何でも残さず食べられるようになる。
- ・時間内で食べたり給食の準備や片付けたりができるようになる。
- ・自分が食べられる量が分かり、決めた量は食べることができる。

～令和6年度 保幼小連携推進委員～

|      |          |      |       |
|------|----------|------|-------|
| 委員長  | 久松幼稚園    | 園長   | 川越 裕子 |
| 副委員長 | 佃島小学校    | 校長   | 岡部 君夫 |
| 副委員長 | 浜町保育園    | 園長   | 森 優子  |
| 委員   | つくだ保育園   | 副園長  | 河合 滋子 |
|      | かちどき西保育園 | 副園長  | 小林 恭子 |
|      | 明正幼稚園    | 副園長  | 田原 雅代 |
|      | 京橋朝海幼稚園  | 主任教諭 | 中道 佳織 |
|      | 月島第三小学校  | 主幹教諭 | 豊田 雅子 |
|      | 月島第一小学校  | 主任教諭 | 福脇 舞子 |

～事務局～

|             |             |       |
|-------------|-------------|-------|
| 福祉保健部       | 保育課長        | 金広 路子 |
|             | 保育指導担当係長付主査 | 石黒 公子 |
|             | 保育指導担当係長付主査 | 本田 弘美 |
| 教育委員会事務局指導室 | 指導室長        | 小林 傑  |
|             | 統括指導主事      | 平野 収  |
|             | 統括指導主事      | 深滝 恵  |
|             | 指導主事        | 飯島 明理 |
|             | 指導主事        | 小松 和子 |
|             | 指導主事        | 大竹 守  |
|             | 指導主事        | 大竹 悠介 |
|             | 指導主事        | 支倉 絵璃 |
|             | 幼児教育担当専門幹   | 中島由美子 |

